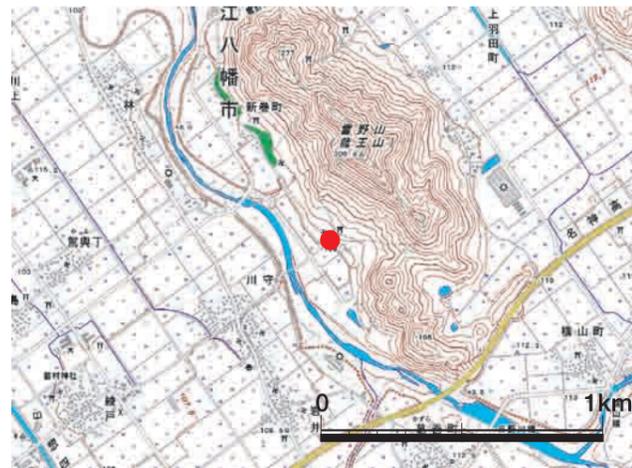


周辺のみどころ

『近江輿地志略』の説話にみえる平木沢は、現在の東近江市上平木・下平木町地先に比定される。江戸時代以前、雪野山と瓶割山とに挟まれた江岸川以西には低湿地がひろがっていたから、これを平木沢と呼んだのだろう。上平木町にある御澤神社の清水池、白水池、泥水池が今にその面影を伝え、白水池が大蛇（龍神）の住まうところと信仰される。この三池の水はどのような旱魃の年でも減ることなく田畑を潤しつつ、また名水「神鏡水」として多くの人々に授けられている。



御澤神社の白水池



【アクセス】

- JR 琵琶湖線近江八幡駅からバスで川守下車、北へ徒歩約10分。

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】  
(関連文献/関連施設)

- 龍王寺 Tel. 0748-57-1166
- 竜王町『竜王町史』

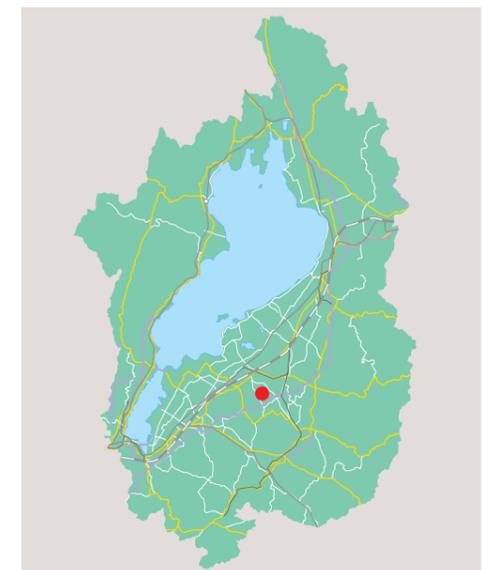
# 龍王寺

蒲生郡竜王町川守



雪野山南麓の龍王寺と雪野寺跡

龍王寺は雪野寺跡にある。雪野寺は野寺とも呼ばれた白鳳期創建寺院で、その法灯を継ぐ龍王寺には「野寺の鐘」と呼ばれる梵鐘が伝わる。この鐘は奈良時代作で、いつの頃からか竜神信仰を色濃くまとうようになり、寺号も龍王寺と改まることとなった。すなわち、この梵鐘は江戸時代中期には大蛇から得た鐘と伝承され、旱魃時には雨乞いが祈願されている。そして現在、雨乞いととも、火災時には水を噴く霊験あらたかな鐘として信仰されている。





## 龍王寺

所在地 蒲生郡竜王町川守

「白水の池」に映る龍王寺(左:本堂 右:鐘楼)

### 雪野寺跡

県指定史跡雪野寺跡は、雪野山南麓に位置する白鳳期創建寺院跡である。これまでの発掘調査によって、石積基壇等が検出され、礎石建ち瓦葺きの塔跡や講堂跡などの存在が明らかになるとともに、童子像や菩薩形、神王形などといった塑像片が大量に出土したことで知られる。

現在、天台宗の龍王寺はその遺跡上において、雪野寺の遺品という奈良時代作の梵鐘(重要文化財)を伝える。また、本尊の木造薬師如来坐像および木造観音菩薩立像、木造地藏菩薩立像は平安時代後期作、木造十二神将立像は重要文化財で鎌倉時代末期作であるから、白鳳期の創建以来、連綿として法灯を継いできたことがうかがわれる。

### 竜神伝説

享保19年(1734)成立の『近江輿地志略』卷之六一に、上述の龍王寺の梵鐘について次

のような説話がみえる。

宝亀8年(777)頃、川守村おののときかねに小野時兼という大和国吉野郡出身の美男がいた。ある日、村にやってきた美女と夫婦になって3年がすぎた頃、妻は「私はまことは人間ではありません。前世の宿因によって妹背の語らいをなしましたが、実は平木沢の主です。これを形見としてください」といって、玉の箱を残して去っていった。時兼は恋慕の情に堪えず、平木沢に行きつくと、妻は長十丈(約30m)ばかりの大蛇となって現れた。時兼は驚き帰って、もらった箱を開けてみると、なかから鐘がでてきたので、雪野寺に寄進した。そして早魃の年に、この鐘に雨乞いを祈願すると、必ず慈雨の恵みを受けた。一条天皇(在位986~1011)はこのことを聞き及び、勅額「龍寿鐘殿」を下賜されたので、雪野寺は寺号を龍王寺に改めたという。



大蛇(龍神)から得たという梵鐘(重要文化財)

### 龍頭の布

大蛇から得たと伝承される龍王寺の梵鐘は現在、つねに龍頭を布で覆っている。この布をはずすと大雨が降るから、雨乞い時以外はけっして龍頭をあらわにしない。事実、この鐘の重要文化財指定時(昭和50年6月12日指

定)、写真撮影のために龍頭の布を解いたところ、確かに大雨が降ったという。